

「分娩前乳房炎予察フロー」による経産牛の乳房炎予防

福島県農業総合センター 畜産研究所酪農科

部門名 畜産－乳用牛－畜産乳質、畜産衛生・疾病

担当者 齋藤美緒・丹治敏夫・小田康典

I 新技術の解説

1 要旨

酪農経営において乳房炎の発生を予防することは、経済損失を軽減し、農家所得の向上につながる。

「分娩前乳房炎予察フロー」により、経産牛の乾乳前直近の牛群検定成績の利用、分娩前乳汁の性状分類、及び市販デジタル糖度計での Brix 値測定を実施することで、乳房炎発症の予防が可能である。

(1)「分娩前乳房炎予察フロー」(図1)により、容易に乳房炎の予察を行うことができる。

(2)「乳房炎注意」の判定が得られたとき、分房乳の細菌学的検査を行う。

グラム陽性球菌に対する薬剤感受性があった場合において、分娩前の治療により乳房炎の予防ができることを確認した(図2)。

2 期待される効果

(1) 牛群検定結果の新たな活用方法として、普及に大いに役立つ。

(2)「分娩前乳房炎予察フロー」は、デジタル糖度計の購入以外の経費がかからないため、容易に取り組むことが可能である。

3 適用範囲

牛群検定受検酪農家

4 普及上の留意点

(1) 乳汁検査実施時においては、乳房炎新規感染防止のためディッピングを必須とする。

(2) 本技術は、未經産牛には適応できない。

Ⅱ 具体的データ等



図1 分娩前乳房炎予察フロー

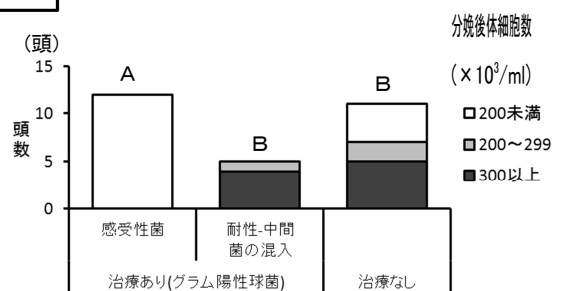


図2 分娩前乳房炎治療の転帰
注1 異符号間で200×10³/ml未満に有意差あり(p<0.01)

Ⅲ その他

1 執筆者

齋藤美緒

2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成 23 年度～26 年度

(2) 研究課題名 生涯生産性の向上を目指した乳牛の飼養管理技術の確立(生産病の早期診断及び治療による生産性向上)

3 主な参考文献・資料

(1) 平成 24 年度普及に移しうる成果「牛群検定データと分娩前乳汁を併用することで乳房炎を効率よく予察できる」

(2) 平成 25 年度参考となる成果「牛群検定データによる、分娩後乳房炎予察のスクリーニング検査法」